

事例4

BELS+緑化で環境配慮

ハイオス

地球と社員に優しいオフィスへ

ねじ締結ソリューションのバイオニア、ハイオスは1970年の創業以来、製品から働き手の就労基盤に至るまで、さまざまな環境配慮にこだわってきた。2019年の本社移転にあたり、築28年の既築ビルを大規模リノベーション。地球にも社員にも優しいオフィスを創りあげた。

■会社の理念を反映した改築プラン

ねじ締結の専門メーカー、ハイオスは、ドライバーからビット、ねじに至るまで高精度の締結により、製造業の基本でもある「歩留まりの向上」で無駄を無くすことで環境負荷を削減してきた。そんな同社は「社員が楽しめる環境づくり」という理念のもと、10年ごとに本社社屋の移転を行っている。そして設立50周年を迎えるにあたり、移転先を選んだのは東京スカイツリーを間近に望む墨田区・押上の築28年、RC5階建ての物件だった。



建築家・宮本雅士氏
(宮本雅士建築設計/mmar)



改修前の1階部分

物件の改修において、白羽の矢が立てられたのは建築家の宮本雅士氏。宮本氏は16歳で単身渡英し建築を学び、英国を代表する建築事務所「ホブキンスアーキテクト」では、世界各国において多数のプロジェクトに参加。24年にわたり英国を拠点とし、ドバイやドクトレードセンターや東京ミッドタウン日比谷など、著名な建築物を手がけた異色の建築家。現在は東京に拠点を構えている。

そんな宮本氏が環境先進国であるヨーロッパで培った経験は、ハイオスの改築プロジェクトにも如何なく発揮されている。「BELS(建築物省エネルギー性能表示制度)は外皮性能と消費エネルギーの評価になりませんが、欧米の基準では緑化やオフィスの動線、採光や吹き抜けといったオフィス環境も評価の対象になります。事前にヒアリングさせて頂いた段階で、社員の働きやすさには並々ならぬこだわりがありましたので、その点に留意した設計を行いました」(宮本氏)

「BELS(建築物省エネルギー性能表示制度)は外皮性能と消費エネルギーの評価になりませんが、欧米の基準では緑化やオフィスの動線、採光や吹き抜けといったオフィス環境も評価の対象になります。事前にヒアリングさせて頂いた段階で、社員の働きやすさには並々ならぬこだわりがありましたので、その点に留意した設計を行いました」(宮本氏)

活用されていた28年前のビルを、BELS基準に引き上げるために省エネ対応機器や照明機器の換気設備、ガラス・サッシの更新、外皮処理を断熱性能を向上させた。これにより一次エネルギー80%を削減、BELS星3つを取得した。これは既築ビルの改修としては



改修後の1階部分は明るく開放的な空間に生まれ変わった
(写真提供: Cody Ellingham 氏)

「廊下やオフィスから自然と緑が目に入ってくる。回りもビルが立ち並んでいるが、コンクリートに囲まれているというよりは緑に囲まれて仕事をしている印象」と評判も上々だ。「欧州ではBREEM、米国ではLEEDといった

境界に近い数値である。さらに改修に当たり建築廃棄物を削減するため、フロア内は極力既存の建物を生かした設計としている。オフィスフロアは間仕切りを少なくし空調機器の台数を削減するとともに、開放感を高めた。また中庭、屋上庭園にはふんだんに植物を設置し緑化を図った。常緑樹や針葉樹をメインに配置、自動散水機を設置することで日々のメンテナンスの軽減も図っている。同社で働く社員からは「廊下やオフィスから自然と緑が目に入ってくる。回りもビルが立ち並んでいるが、コンクリートに囲まれているというよりは緑に囲まれて仕事をしている印象」と評判も上々だ。「欧州ではBREEM、米国ではLEEDといった

建築における省エネ評価基準が1990年代からあります。私自身、以前にサステナブルデザインのパイオニアな事務所勤務していましたが、省エネに関しては欧米は制度を作らなければやらない、という印象です。もともと日本は資源も少なく省エネ意識なので、個人の環境意識も高い。こうした自主的な環境配慮が、居心地が良く持続可能なオフィス作りにつながっていくと思います」(宮本氏)

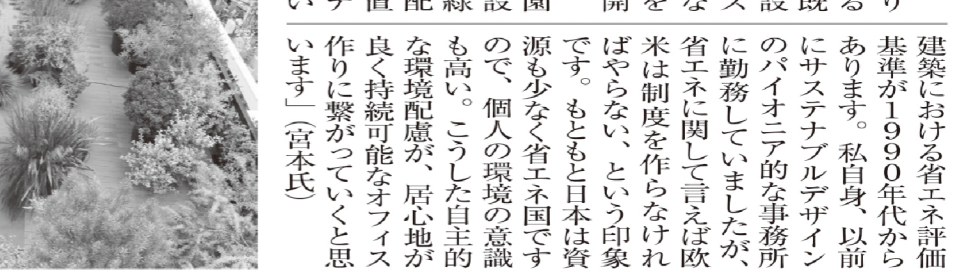
建築における省エネ評価基準が1990年代からあります。私自身、以前にサステナブルデザインのパイオニアな事務所勤務していましたが、省エネに関しては欧米は制度を作らなければやらない、という印象です。もともと日本は資源も少なく省エネ意識なので、個人の環境意識も高い。こうした自主的な環境配慮が、居心地が良く持続可能なオフィス作りにつながっていくと思います」(宮本氏)

建築における省エネ評価基準が1990年代からあります。私自身、以前にサステナブルデザインのパイオニアな事務所勤務していましたが、省エネに関しては欧米は制度を作らなければやらない、という印象です。もともと日本は資源も少なく省エネ意識なので、個人の環境意識も高い。こうした自主的な環境配慮が、居心地が良く持続可能なオフィス作りにつながっていくと思います」(宮本氏)

建築における省エネ評価基準が1990年代からあります。私自身、以前にサステナブルデザインのパイオニアな事務所勤務していましたが、省エネに関しては欧米は制度を作らなければやらない、という印象です。もともと日本は資源も少なく省エネ意識なので、個人の環境意識も高い。こうした自主的な環境配慮が、居心地が良く持続可能なオフィス作りにつながっていくと思います」(宮本氏)

建築における省エネ評価基準が1990年代からあります。私自身、以前にサステナブルデザインのパイオニアな事務所勤務していましたが、省エネに関しては欧米は制度を作らなければやらない、という印象です。もともと日本は資源も少なく省エネ意識なので、個人の環境意識も高い。こうした自主的な環境配慮が、居心地が良く持続可能なオフィス作りにつながっていくと思います」(宮本氏)

建築における省エネ評価基準が1990年代からあります。私自身、以前にサステナブルデザインのパイオニアな事務所勤務していましたが、省エネに関しては欧米は制度を作らなければやらない、という印象です。もともと日本は資源も少なく省エネ意識なので、個人の環境意識も高い。こうした自主的な環境配慮が、居心地が良く持続可能なオフィス作りにつながっていくと思います」(宮本氏)



緑豊かな屋上庭園にはラベンダーも植えられている